

青少年のSNSでの情報発信による トラブル防止を目指した教材開発



キーワード：情報モラル教育・教材開発・SNS・産学連携

1. 取り組みの背景と目的

内閣府(2022)の調査では、スマートフォンでインターネットを利用していると回答した青少年のうち、インターネットの利用内容として76.0%が「投稿やメッセージ交換をする」と回答しており、子どもたちにとって、インターネット上での情報発信が身近になっていることがわかります。また、SNS利用により発信された情報から知らない人との出会いにつながるケースもあります。インターネットやSNSを通じた情報発信は、対面での情報発信とは異なる性質を持つ一方で、様々なリスクをはらんでいることが懸念されます。そこで、本研究ではLINEみらい財団との共同研究として、青少年がSNSによる情報発信を通じて、犯罪の被害者や加害者にならないことを目的とした教材を開発することを目的としました。

2. 教材の概要

本教材は主に3つの内容で構成されています。

①ネットの特性の理解

ネットやSNSの特性を理解し、情報を発信する際にはどんなことに気を付けるべきか考えます。

②犯罪のリスクを考える

性的な写真の送受信を行った際に法や条例に抵触する恐れがあるかを考え、犯罪のリスクについて学びます。

③対応策を考える

性的な自撮り写真などを送るよう要求される事案に焦点を当て、被害を防ぐための断り方や第三者へ相談する際のポイントを身に着けます。

こうした内容を通して、自分が被害者にも加害者にもならないよう、リスクを予見し回避するための考え方や、何かあったときの対応方法について学べるようになっていきます。また、本教材はワークショップ形式になっており、生徒たちが自ら考えグループで議論し、考えを深められるように設計しています。



3. 教材の効果検証

開発した教材について、効果検証を行うためA中学校2年生を対象に実践を行いました。その結果、教材に対して、「わかりやすかった」、「理解しやすかった」といった肯定的な感想が多くみられました。

また、「もしSNSで知らない人から写真を送るように言われたら誰に相談しますか？」という質問への回答に対して、実践の前には、「相談しない」という回答が多かったのに対して、実践の後には「保護者」や「学校の先生」、「警察」という回答が有意に増加していることが明らかになりました。

このことから、授業を受けた生徒は本教材を通じて、トラブルに合った際の対応の選択肢が広がったのではないかと考えています。

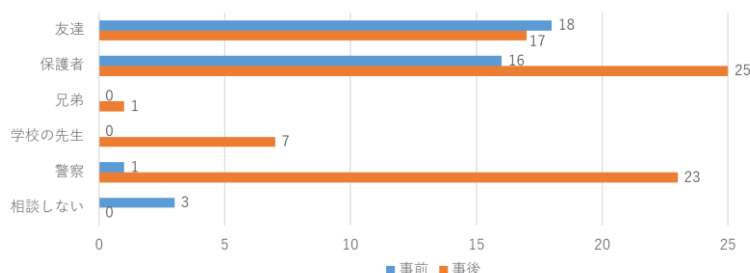


図1 「もしSNSで知らない人から写真を送るように言われたら誰に相談しますか？」の回答(n=38) ※複数回答

4. 今後の展望

ネットや情報機器の普及は、私たちの生活を豊かにしていくものであり、これからも新しい技術やサービスが次々と登場してくるでしょう。その一方で、これらを悪用した犯罪や利用に起因したトラブルも絶えず発生しています。

こうした問題は、機器やサービス自体に全ての非があるわけではなく、使う側がどのようなモラルや責任を持つかによって変わってくるものです。

こうした情報モラルの側面を学校現場でどのように醸成していくか、そのサポートとなる教材や授業を今後も開発していきたいと思っています。

教員名 酒井 郷平

所属 教育学部初等教育課程

職位 講師

連絡先 k-sakai@sz.tokoha-u.ac.jp

※教材の詳細は以下よりご確認ください。

LINEみらい財団 <https://line-mirai.org/ja/events/detail/96>

